

特集
障がい者と
ともに生きる

お手伝いしましょうか

～車いす体験で思いやりの心を学ぶ～

12月3日から9日までは、「障害者週間」です。障がいのある人を支えあい、ともに生きるためには、市民ひとりひとりが、障がいを正しく理解することが大切です。今回の特集では、市内小学校で行われた「車いす体験」の様様をお伝えするほか、市の障がい者福祉制度などを紹介します。

安井小学校で車いす体験学習

福祉体験を通じて人を思いやる心を学ぼうと、11月20日と21日の両日、安井小学校で車いす体験学習が行われました。

今回の体験学習は、大垣市社会福祉協議会から講師を招き、6年生140人が、体育館で各日2クラスごとに2時間ずつの体験授業に臨みました。

最初に講師の佐々木さんが、障がい者福祉をテーマにした広報別冊マンガをもとに、質問形式で思いやりの心や声掛けの大切さを説明。児童たちは、講師からの問いに対し、積極的に手を挙げ答えていました。



続いて、車いすの機能や使うときの注意点などの講義が行われ、児童たちは熱心に耳を傾けていました。

その後、3～4人のグループに分かれ、車いすを利用する役、介助する役と交互に入れ替わりながら、グループごとに車いすで校内を巡りました。初めて車いすに乗る児童が大半で、慣れない車いすに戸惑いながら、バリアフリーの必要性を身をもって学びました。

こうした体験学習は、市内の保育園・幼稚園・幼保園、小中高等学校で数多く行われています。市や市教育委員会は、今後実践的な福祉教育の推進に取り組み、互いに助け合い、思いやりのある子どもたちの育成に努めていきます。



車いす介助のポイント

- 介助の基本はコミュニケーション…車いすがいきなり動いたら、乗っている人はびっくりします。進む・止まるなどの際には、必ず声を掛け、介助しましょう。
- 止まったときや車いすから離れるときは、必ずブレーキをかける…車いす動かないよう、片手は手押しハンドルを持ち、もう片方の手でブレーキをかけます。
- 段差がある場合や凸凹している場合は、前輪を浮かせて



て走行…前輪が横を向き、ロックがかかるのを防ぐため、ティッピングレバーを踏みながら、手押しハンドルを下に押し下げ、前輪を浮かせます。

- 下り坂は、後ろ向きで降りる…前向きで降りると、乗っている人が転倒する危険があります。また、後ろ向きであっても、進行方向が見えない恐怖感を和らげるため、ゆっくりと降りるのがポイントです。

〈ひとりひとりへの思いやり〉

障がいの種類や程度は、さまざまです。このため、不安に思うことや支援を必要とすることも、人によって異なります。

では、困っている人を見かけたらどうすればよいのでしょうか。相手の思いを知るためには、まずは「お手伝いしましょうか」の声掛けです。

見知らぬ人に声を掛けるのは勇気がいることですが、一歩踏み出し、心の壁を取り除きましょう。相手の気持ちを理解し、ひとりひとりへの思いやりの心を持つことが大切です。



Voice

体験学習で学んだこと



車いすに乗ってみて感じたこと

6年1組 國枝夏渚さん

私は、今まで、車いすでの生活は思うように移動できず、毎日が大変だろうなと思っていましたが、今回の体験で車いすに乗ってみて、その大変さが

今まで以上に分かるようになりました。

いつもなら真っすぐ歩ける学校の廊下でも、車いすに乗ってだと上手く操作できず、斜めに進んで壁にぶつかってしまいました。また、段差のある場所では、友達に後ろから押してもらわないと進めませんでした。

今回、車いすの人の気持ちが分かったので、困っている場合はお手伝いしてあげたいと思いました。



体験から分かった祖父の気持ち

6年2組 中迫紗穂子さん

私の祖父は、ずっと前から車いすで生活しています。これまで、祖父を見ても、車いす生活で困っていることは何もないかのように見えていました。

しかし、今回の体験で、車いすを操作するのはとても難しいことだと分かりました。ちょっとした坂や段差でも上るには力が要り、介助が必要となる場合もありました。また、通りかかった人に注目され、とても戸惑いました。このとき、初めて祖父の気持ちが分かりました。

今回学んだことは、これからの祖父の介助に生かしていきたいです。